

愛知東邦大学 シラバス

| | | | |
|--------------------|-------------|-----------------------------|----|
| 開講年度(Year) | 2024年度 | 開講期(Semester) | 後期 |
| 授業科目名(Course name) | 保育内容 (音楽表現) | | |
| 担当者(Instructors) | 水野 伸子 | 配当年次(Dividend year) | 2 |
| 単位数(Credits) | 2 | 必修・選択(Required / selection) | 選択 |

| | | | |
|---|--|--|--|
| ■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline) | | | |
| 幼稚園教育要領「総則」で示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて「表現」領域のねらい及び内容を理解する。幼児の発達や学びの過程を発達心理学・民俗学の視点から総合的に理解し、多様な音楽活動の中から具体的な指導場面を想定した保育を構想する。模擬保育を実施し、その振り返りを通して保育を改善する視点を身につける。 | | | |

| | |
|----------------------------------|--|
| ■ 授業形態・授業の方法 (Class form) | |
| 授業形態(Class form) | 演習 |
| 授業の方法(Class method) | 演習、および実技形式で行うが、サウンドスケープの内容ではフィールドワークを、音楽づくりではグループワークを取り入れる。原則は対面で行い、3回程度リモートを取り入れる。提出された課題はコメントをつけて返し、次の授業で全体交流する。 |

| ■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents) | | | |
|--|---|---|---------------|
| 回数(Num) | テーマ(Theme) | 内容(Contents) | メディア区分(Media) |
| 第1回 | 本授業の目的と授業計画、幼稚園教育要領に示された目標と関連付けた自己課題の設定 | 本授業のねらいと授業計画を理解し、幼稚園教育要領に示された目標と関連付けた自らの課題を明確にする。 | □ |
| 第2回 | 伴奏法1：コードネームの理解と子どもの歌の主要3和音 (I, IV, V) を用いた伴奏の作成 | 子どもの歌のハ長調のI, IV, V7のコードを用いた伴奏をグループワークを通して実践的に理解する。 | □ |
| 第3回 | 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、「表現」領域のねらいと内容 | 幼稚園教育要領・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領・保育所保育指針における領域「表現」の内容を理解する。 | □ |
| 第4回 | わらべうた、言語表現・身体表現・造形表現との関係を踏まえた保育の構想 | わらべうたの教育的意義について、言語表現・身体表現・造形表現との関係から整理する。 | □ |
| 第5回 | 幼児期の音感覚、日本人の音楽的文化化 (Musical Enculturation) | 母語のもつリズムや音程から培われる伝統的な音感覚と現代文化である西洋音楽の音感覚が融合されて幼児期の音感覚が形成される過程を理解する。 | □ |
| 第6回 | 民俗学の視点から捉える人間と音楽の関係 | 縄文時代や弥生時代に生きていた先祖は、どのように音や音楽と関わってきたのか、その原初的な関係を検討することにより、人と音や音楽との関係を問い直す。 | □ |
| 第7回 | リトミックと身体表現による保育の構想と情報機器及び教材の活用 | 人間の身体の中にあるリズムをきっかけにして動きに転換し、音楽的理解にかえたリトミックの考え方を理解し、保育に活かす方法を知る。 | □ |
| 第8回 | コダーイ・メソッドとわらべうたによる保育の構想と情報機器及び教材の活用 | 声を重視し、歌うこと、特に母語からなるわらべうた、ハンドサイン、トニック・ソルファ法を理解し、保育に活かす方法を知る。 | □ |
| 第9回 | オルフ・メソッドとリズムによる保育の構想と情報機器及び教材の活用 | 人と音楽の原初的な関係から、エレメンタール(根元的)な音楽のあり方を理解し、保育に活かす方法を知る。 | □ |
| 第10回 | 伴奏法2：子どもの歌の主要3和音 (I, IV, V) を用いた伴奏譜の作成とその演奏 | 子どもの歌の伴奏をI, IV, V7のコードを用い発達段階に応じたリズムアレンジを加えて作成し演奏技術を習得する。 | □ |
| 第11回 | 伴奏法3：ハ長調・ト長調・ニ長調への移調の実践的理解 | 子どもの歌の伴奏をI, IV, V7のコードを用いて作成し、それを移調する方法を実際の演奏を通して理解する。 | ■ |
| 第12回 | 療法的音楽活動、幼稚園教育における評価の考え方 | 人が心身ともに健康に生活することを目指し、子どもの側に立って行なう療法的音楽活動の方法を知り保育に活かす方法を知る。 | □ |
| 第13回 | 音遊びによる模擬保育とその振り返りによる保育を改善する視点の理解、及び指導案の作成 | 実際に音遊びによる模擬保育を体験し、子どもの反応を予測し、それを基に指導案を組み立てる | □ |

| | | | |
|------|---------------------------------------|---|---|
| 第14回 | 伴奏法4：副三和音や借用和音の効果の理解とリズムアレンジを加えた伴奏の作成 | I、IV、V7の主要三和音に副三和音や借用和音を加える効果を実践的に学び、歌の構成を生かすリズムアレンジをした伴奏譜の作成とその演奏技術を習得する | ■ |
| 第15回 | 発達や学びの過程を踏まえた幼児期における音楽活動の意義 | 幼児の事例を基に、発達や学びの過程を踏まえ、乳幼児の音楽表現はどのようにあることが望ましいのかを論じる。 | □ |

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

・事前学習:次の授業で学ぶ関連テキストの章を読み、わからない音楽用語や疑問に思う内容を明確にする(2時間程度)。 ・事後学習:授業でわかったことや疑問に思うことなどをノートに整理するとともに、課題レポートに取り組む(2時間程度)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出されたレポートは添削して返す。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

| 区分(Division) | DP区分(DP division) | 内容(DP contents) |
|--------------|-------------------|---|
| 思考力・判断力・表現力 | ◆ 2019子ども発達DP2 | 幼稚園教育要領「表現」領域に示されたねらい及び内容について理解し、幼児の発達や学びの過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることができたか。 |
| 主体性 | ◇ 2019子ども発達DP3 | 具体的な子どもの反応をイメージすることができ、それらに対応した支援策を準備して保育を構想することができる。 |

■成績評価(Evaluation method)

| 筆記試験(Written exam) | 実技試験(Practical exam) | レポート試験(Report exam) | 授業内試験 (in-class exam) | その他(Other) |
|--------------------|----------------------|---------------------|-----------------------|------------|
| | | | 50% | 50% |

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

その他：授業内確認テスト(50%)、平常評価：授業で取り組む音楽活動への取り組みや学習プリントの記入内容(50%)

■テキスト(Textbooks)

| No. (No.) | テキスト名など(Text name) | ISBN(ISBN) |
|-----------|---|---------------|
| 1 | 石井玲子編著：実践しながら学ぶ子どもの音楽表現 保育出版社 | 9784938795788 |
| 2 | 「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省） | |
| 3 | 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） | |
| 4 | 自作テキスト（学習プリント含む） | |
| 5 | | |

■参考図書(references books)

| No. (No.) | テキスト名など(Text name) | ISBN(ISBN) |
|-----------|--|---------------|
| 1 | 横井志保・奥美佐子編著：新・保育実践を支える「表現」福村出版 | 9784571116162 |
| 2 | 石井玲子編著：表現者を育てるための保育内容「音楽表現」一音遊びから音楽表現へー 教育情報出版 | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |